

# 会報



◆ 会員校の特色ある取り組みの紹介

## 富山福祉短期大学 看護学専攻科のご紹介

### 愛知県地区活動プロジェクト 「看護の魅力を発信！」 報告



- ◆ 2023 年度事業活動報告
- ◆ 理事会報告
- ◆ 事務局からのお知らせ
- ◆ 編集後記

# 大学教育委員会

担当理事および委員（○：委員長）

○赤澤 千春 大阪医科薬科大学

江川 隆子 関西看護医療大学

原 玲子 日本赤十字秋田看護大学

日高 艶子 聖マリア学院大学

## 1. 研修会の開催

### 〈研修会 1〉新任教員向け研修会「私立大学とは」

①目的：私立大学の教職員として基本的知っておかなくてはいけない考え方や、教育課程について学ぶ

②講師：島袋 香子 氏（北里大学）、春山 早苗 氏（自治医科大学）

③日時：2023年8月5日（土）10：00～15：00

④開催方法：（当日）会場開催、Zoom ウェビナーを用いたライブ配信（講演のみ）  
（後日）オンデマンド配信

⑤プログラム：

（午前の部）

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～10：55

講演1「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子 氏

10：55～11：40

講演2「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」

講師：春山 早苗 氏

11：40～12：00 質疑応答

12：00～13：00 休憩

（午後の部）※午後の部は会場開催のみ

13：00～14：00 グループワーク

14：00～14：55 発表・質疑応答

14：55～15：00 閉会挨拶

当日参加者：会場参加 21 名、Zoom 参加 85 名、グループワーク参加 21 名

動画配信期間：2023年8月17日～11月17日

動画視聴回数：720 回

## 講演概要

### 講演 1



私立看護系大学を理解する

島袋 香子 北里大学 学長

- 1) 大学における教育に関する法律
- 2) 私立大学の運営に関する法律
- 3) 私立大学の教員の責務と役割  
大学における教育に関する法律、教育基本法では教

育の目的について第1条と第2条において5つの目標が掲げられている。そして、大学（第7条）では、「自主性、自立性その他大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない」と掲げられている。私立大学（第8条）では、「私立学校の有する公の性質及び学校教育において果たす重要な役割をかんがみ、国及び地方団体は、その自主性を尊重しつつ、助成その他の適当な方法で私立学校振興に努めなければならない」と定められ、国や地方団体は私学振興の責任があることが示された。さらに学校教育法第92条では学長から教授、准教授、助教、助手に至るまでの役割について明記されていること、第93条、第109条、第165条の2には大学の組織やメンバー、認証評価などについて定められていることを詳しく解りやすく解説された。特に認証評価については、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーについて詳しく説明された。また、第166条には「大学は、学校教育法第109条第1項に規定する点検及び評価を行うにあたっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする」と必要であることが定められていることなど詳しく解説された。

私立大学の運営に関する法律、私立学校法については、令和7年度からの改正法施行について図式をもって、役員を選任、ガバナンスの改善や強化、運営基盤の強化、私立学校振興助成法などを含めわかりやすく解説された。

教育の向上のための内部質保証について、Act/Plan/Do/Checkのサイクルについてもわかりやすく説明された。こうした講義の中でやはり、私学における教員の責務と役割については、個人的にも非常に興味を持って受講した。

講義に対するアンケート結果は、大変満足、満足を含み93人（100%）であった。 文責：江川

### 講演 2



建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について

春山 早苗  
自治医科大学 看護学部 学部長

私立大学は、建学の精神に基づき教育・研究・地域

貢献に取り組んでいることは言うまでもない。しかしながら、新入教員にとってそれは具体的にどのような取り組みでいけばよいのか全くもって未知の世界である。春山早苗教授の講演では、自治医科大学の事例を通して建学の精神に基づく教育・研究・地域貢献の連動について紹介された。

参加者 91 人の講演後のアンケート結果は、大変満足 41 人(45%)、満足 47 人(52%)、やや満足 3 人(3%)、不満足 0 人(0%)であった。自由記載においては、教育・研究・地域貢献は連動していること、大学の存続のためには社会から求められていることを知ること、自分が所属する大学の魅力を理解すること、等が重要であると記述されていた。

本講演は、止められない少子化の進行に伴い、大学の存続が問われるこの時代において、私立大学が如何に地域のニーズに応え、地域の発展に寄与することが期待されているかについての理解を促し、多くの示唆に富んだ内容であった。

文責：日高

#### 〈研修会 2〉看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際

- ①目的：特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援の実際を学び、教職員に必要な能力を向上させるための示唆を得る
  - ②講師：西村 優紀美 氏（富山大学 保健管理センター 客員准教授）
  - ③日時：2024 年 1 月 27 日（土）10：30～12：00
  - ④開催方法：（当日）Zoom ウェビナーを用いたライブ配信  
（後日）オンデマンド配信
  - ⑤プログラム：
    - 10：30～10：40 開会挨拶
    - 10：40～11：40 講演
    - 11：40～11：55 質疑応答
    - 11：55～12：00 閉会挨拶
- 当日参加者：112 名  
動画配信期間：2024 年 2 月 15 日～5 月 15 日  
動画視聴回数：478 回（2 月 29 日時点）

### 講演概要



#### 特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援の実際

西村 優紀美  
富山大学 保健管理センター 客員准教授

障害のある学生に対する支援の例と支援に関する最近の動向が紹介された。支援は学生と基本的な学び方のルールを決め、それを確認しながら対応していくことからスタートすること、対応を進めるためには、学内の連携体制を構築することの必要性が話された。令

和 6 年 4 月 1 日からの「合理的配慮」の義務化を受け、障害のある学生の法的支援の根拠と合理的配慮の決定の手順、合理的配慮については、学生が学ぶべきことや成績の評価基準等の学修の本質部分に変更できないが、学修するための手段や評価方法等は対応が必要であることが説明された。多くの質問があり関心の高さがうかがえた。アンケート回収率 63%で、大変満足 67%、満足 33%で、100%が満足の回答で、自由記述では、「大学組織としての取り組みの必要性」「合理的配慮の理解を深めた」等の記載が多く見られた。また、「実習の調整等に関することの説明をもう少し聞きたかった」等の参加者のニーズが把握できた。

文責：原

## 2. 委員会の開催

### 第 1 回大学教育委員会

日時：2023 年 10 月 6 日（金）14：00～15：00

開催方法：Zoom を用いた Web 開催

出席者：赤澤千春、江川隆子、原玲子、日高艶子  
（五十音順、敬称略）

- 議題：(1) 研修会（2024 年 1 月 27 日開催）について  
(2) 2024 年度事業活動の拡充について  
(3) 会報第 51 号への事業活動報告の原稿執筆の担当について  
(4) 今後のスケジュール

### 第 2 回大学教育委員会

日時：2024 年 2 月 1 日（木）10：00～10：35

開催方法：Zoom を用いた Web 開催

出席者：赤澤千春、江川隆子、原玲子、日高艶子  
（五十音順、敬称略）

- 議題：(1) 研修会（2024 年 1 月 27 日開催）の振り返り  
(2) 2024 年度事業活動計画について  
(3) 2023 年度事業活動報告について  
(4) 今後のスケジュールについて

## 3. 今後の課題

看護教育を取り巻く環境は社会の変化とともにいくつかの課題をもたらしている。一つは国の中等教育の変革に伴って、大学に入学して来る学生のレディネスの変化、次いで成年年齢が 18 歳になったことで求められる‘大人’としての成長、そしてどこの大学でも対応に苦慮しているメンタルケアである。これらの課題に対処しつつ高等教育としての求められる変化がある。これらの課題に対して、現状を知り、それをふまえた大学教育の成果や課題について会員校と共有する機会を設けることが必要である。それらの観点から会員校のニーズを把握しつつ、次年度の事業活動計画を策定する。



# 研究活動委員会

麻原 きよみ 聖路加国際大学  
 中新 美保子 川崎医療福祉大学

香春 知永 武蔵野大学  
 ○野末 聖香 慶應義塾大学

## 1. 研究助成事業

2023年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を4月1日～5月31日に行い、7月8日に選考委員会で選考した結果を第2回定例理事会（7月29日）に提出し、看護学研究奨励賞11件、若手研究者研究助成10件、国際学会発表助成5件を採択することを決定した。8月から助成金の交付を行った。

### 2023年度研究助成事業選考委員会の開催

日時：2023年7月8日（土）10：00～14：00

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：

（理事）麻原きよみ、坂本真理子、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

（選考委員）大坂和可子、杵淵恵美子、小山友里江、近藤麻理、高田由美、泊祐子、中岡亜希子、松岡千代（五十音順、敬称略）

## 2. 学術研究および学術研究体制に関する事業

### 〈第1回研究セミナー〉

#### ①若手研究者研究助成成果報告

2020年度・2021年度若手研究者研究助成採択者（5名）による研究成果報告を行った。

#### ②講演

日時：2023年9月30日（土）13：00～16：10

開催方法：Zoomウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

テーマ：「研究活動を推進するための環境の作り方」

目的：教員が研究活動を推進するための効果的な手段についての好事例や他学部との連携共同研究の仕組みなどについて、講師からそれぞれの取り組みを紹介していただく。

講師：麻原 きよみ 氏（聖路加国際大学）

森戸 雅子 氏（川崎医療福祉大学）

吉永 尚紀 氏（宮崎大学）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～14：25 2020年度・2021年度若手研究者研究助成採択者による研究成果報告（5名）

14：25～14：40 休憩

14：40～15：00

講演1：研究活動を推進するための支援環境

講師：麻原 きよみ 氏

15：00～15：20

講演2：感覚特性サポートアプリケーション協働開発に向けた他領域教員との連携の実際

講師：森戸 雅子 氏

15：20～15：40

講演3：テニユアトラック制とは？

～若手が自立的な環境で研究力を磨くために～

講師：吉永 尚紀 氏

15：40～16：00 質疑応答

16：00～16：10 閉会挨拶

当日参加者：59名

動画配信期間：2023年10月11日～2024年1月11日

動画視聴回数：278回

### 講演概要

#### 講演1



研究活動を推進するための支援環境

麻原 きよみ 聖路加国際大学

#### 講演2



感覚特性サポートアプリケーション協働開発に向けた他領域教員との連携の実際

森戸 雅子 川崎医療福祉大学

#### 講演3



テニユアトラック制とは？  
～若手が自立的な環境で研究力を磨くために～

吉永 尚紀 宮崎大学

麻原先生からは、教員の研究活動を推進するための法人組織としての管理体制や教員の研究支援体制について、また研究推進のための全学的、精力的取り組みの内容とその成果についてお話しいただいた。森戸先生からは、他領域の教員との研究連携におけるチームづくりの意義、研究的発展や課題についてお話しいただいた。また吉永先生からは、若手研究者が研究力を磨くための環境づくりとしてのテニユアトラック制についてご自身の体験を踏まえお話しいただいた。研究推進のためには、大学に研究推進の文化を醸成することが重要であり、仕組みを整える具体的な方策や乗り越えるべき課題について学ぶことができた。参加者から、支援体制づくりや研究チームづくり、若手研究者支援について大変参考になったとの感想が寄せられ、それぞれの大学における研究推進活動に活かせる貴重な講演であり、満足度の非常に高いセミナーであった。

### 〈第2回研究セミナー〉

#### ①若手研究者研究助成成果報告

2020年度・2021年度若手研究者研究助成採択者（5名）による研究成果報告を行った。

#### ②講演

日時：2024年2月3日（土）13：00～16：40

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

講師：山路 野百合 氏（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 グローバルナースングリサーチセンター 特任助教）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～14：25 2020・2021年度若手研究者研究助成採択者による研究成果報告

14：25～14：40 休憩

14：40～16：10

講演「スコーピングレビュー」

講師：山路 野百合 氏（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 グローバルナースングリサーチセンター 特任助教）

16：10～16：30 質疑応答

16：30～16：40 閉会挨拶

当日参加者：136名

動画配信期間：2024年2月19日～5月19日

動画視聴回数：378回（2024年2月29日時点）

レビューの歴史、スコーピングレビューの特徴・定義・目的、レビューの手順、スコーピングレビュー実施に役立つサイトや動画について、丁寧に、事例を挙げながら分かりやすく具体的にお話しいただいた。手順については選択基準、検索戦略、文献選択、データの抽出、分析、結果の提示など詳細に説明していただいた。参加者の関心が高いテーマであり、プロトコル登録や査読のポイントについてなど質疑も活発に行われた。レビューを実施する上で大変参考になったとの感想が多く寄せられ、満足度の非常に高いセミナーであった。

## 3. 委員会

### 第1回委員会

日時：2023年8月28日（月）14：30～16：00

方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：麻原きよみ、香春知永、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

議事：①9月30日の研究セミナーの運営について

②事業活動の拡充について

③2024年度助成事業について

### メール審議

日時：2023年11月1日～11月8日

議事：2024年度研究助成事業について

### 第2回委員会

日時：2023年2月3日（土）16：50～17：40

方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：麻原きよみ、香春知永、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

議事：①2024年度研究助成事業について

②2024年度事業活動計画について

③2023年度事業活動報告について

## 4. 今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進する。また改正した規程等を2024年度に適用し、運用上問題がないかを確認する。
- ②会員校の教職員のニーズに沿ったセミナーの開催について検討し、研究セミナーを開催する。

## 講演概要



### スコーピングレビュー

山路 野百合

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 グローバルナースングリサーチセンター 特任助教

## 国際交流委員会

担当理事および委員（○：委員長）

櫻井 しのぶ 順天堂大学  
 (委員) 中村 敦子 日本赤十字広島看護大学

○田村 由美 日本赤十字広島看護大学  
 若林 律子 順天堂大学

## 1. 研修会の開催

テーマ：包括的性教育の推進—小中高における学校保健と看護学教育の連携—

目的：「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に準拠した包括的性教育の国内外の現状、支援の事例等を学び、看護学教育における包括的性教育の在り方を検討し推進していくための示唆を得る。

内容：2022年度に続きLGBTQ+に関する内容とし、看護学と研究の視点を含めた講演と座談会

開催日時：11月11日（土）13：00～14：50

開催方法：Zoom ウェビナーを用いたライブ配信、オンデマンド配信

講師：菊池 準子 氏（食愛♡Kitchen～くうらぶ♡きっちん～ 主宰）（一般社団法人“人間と性”教育研究協議会 四国ブロック幹事）

野口 亜弥 氏（成城大学文学部 専任講師）（スポーツとジェンダー平等国際研究センター 副センター長）（一般社団法人 S.C.P. Japan 代表）

中村 敦子 氏（日本赤十字広島看護大学 看護学部 准教授）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～13：40 基調講演

『子どもも大人も共に学び考え合う「包括的性教育」～キーワードは「つながる」～』

講師：菊池 準子 氏

13：40～14：00 事例紹介 1

『学校スポーツ現場におけるLGBTQ』

講師：野口 亜弥 氏

14：00～14：15 事例紹介 2

『多様な性に対する理解 看護大学 母性看護学・助産学領域の立場から』

講師：中村 敦子 氏

14：15～14：20 休憩

14：20～14：45 座談会

14：45～14：50 閉会挨拶

当日参加者：60名

動画配信期間：2023年11月14日～2024年2月14日

動画視聴回数：232回

## 講演概要

基調講演



『子どもも大人も共に学び考え合う  
 「包括的性教育」  
 ～キーワードは「つながる」～』

菊池 準子

食愛♡Kitchen～くうらぶ♡きっちん～  
 主宰 一般社団法人“人間と性”教育研究協議会  
 四国ブロック幹事

講演では、「包括的性教育」とは何か、また、なぜ「包括的性教育」が求められているのかについて説明された。また、ユネスコから発表されている「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」が紹介され、「包括的セクシュアリティ教育」は国際水準であることが説明された。性器は究極のプライバシーである一方で、生涯にわたりすべての人々に関わることであり、すべての人にとって学びが必要であり、特に医療現場では学びが重要であることが強調された。性＝生であり、人々が幸せに生きていくために、人権を尊重し、性を学ぶことが「包括的セクシュアリティ教育」であり、人権を基盤とし、人間関係、多様性、いのちを含む人としての土台を育み総合的に人を育てる教育であることが説明された。菊池氏が取り組んだ事例として誰にでも理解ができるよう絵で説明する絵本が紹介された。

さらに、国内外における性や男女平等に関する動向やそれらに伴う性教育の変遷について説明がされた。性を学ぶ上で大切なキーワード「幸せに生きる権利」、「からだの権利」、「SRHR（性と生殖に関する健康と権利）」、「性的自己決定権」を基に、どのように性教育を進めていくのか説明された。

続いて、宇和島市の中学校において菊池氏が取り組



んでいる「包括的セクシャリティ教育」の連携について紹介された。本取り組みでは、外部講師による講話だけでなく、学級担任にも関わってもらい取り組みを行ない、2023年1月にはNHKや新聞で紹介されていることが示された。

看護系大学に求めることとしては、「まずは教員が学び」、「つながる」ことが重要であり、「包括的性教育を広めていくために力を発揮するリーダーの育成、カリキュラム作成・研修の充実」であることが示された。

### 事例紹介①



#### 学校スポーツ現場におけるLGBTQ

野口 亜弥

成城大学文芸学部 専任講師  
スポーツとジェンダー平等国際研究センター 副センター長  
一般社団法人S.C.P. Japan 代表

スポーツにおいて、なぜLGBTQ+が重要であるか、またその取り組みについて事例をあげ講義いただいた。スポーツの歴史を遡るとジェンダーやセクシャリティと深く関わりがあることが説明された。スポーツの中では、80%の人は、LGBTQ+は受け入れられていないと回答していることやLGBTQ+の当事者90%は、スポーツの中で同性愛嫌悪やトランス嫌悪に直面しており、「差別・偏見・嫌悪との闘い」や「制度・仕組みとの闘い」があることが示された。

LGBTQ+の人々に対し、スポーツ現場でどのように安心、安全を保障できるかが課題となっており、それらに対し、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」の3つのスポーツを推進していることが説明された。「するスポーツ」の具体例としては、男女の更衣室にプライベートスペースを設けることや、「LGBTQ+フレンドリー」を表示する、「ユニフォームを男女一緒にする」などの例が紹介された。「みるスポーツ」では、「プライドハウス」、東京オリンピックでのガイドラインが紹介された。「支えるスポーツ」では、支える側の職員、ボランティアなどに対する研修会を実施すること、呼称を「さん」で統一すること、性別でルールを変えないなどの例が紹介された。また、嫌なことが起きた時に、安心・安全に報告できる仕組みをつくっていくことの必要性が強調された。

### 事例紹介②



#### 多様な性に対する理解 看護大学 母性看護学・助産学領域の立場から

中村 敦子

日本赤十字広島看護大学 看護学部 准教授

「看護学部におけるセクシャリティに関する教育」、「セクシャリティについて学生への質問した結果」、「包括的性教育の推進—小中高における学校保健と看護教育の連携—」の3点の事例を示し講義をいただいた。

看護学部におけるセクシャリティに関する教育では、中村氏の大学では、2年次における「母性看護学概論」の科目において、セクシャリティ、身体上の性と心理・社会上の性、ジェンダーを取り上げており、助産学の授業では、アイデンティティについて取り上げているがいずれも90分の中で10分程度と少ない課題が挙げられた。続いて、「セクシャリティについて学生への質問した結果」について示され、「意識したことがない」学生や「考えたことがない」学生がいる一方で、「違和感なく受けとめられている」学生がいることが示された。また、看護大学で学修する上では、性差を感じることもあることが示された。ユニフォームはユニセックスなデザインのユニフォームを着たいなどの希望があることが示された。

最後に、「包括的性教育の推進—小中高における学校保健と看護教育の連携—」について大学と小中高での連携の具体例が示された。小学校における生命教育「いのちのたんじょう」、中学校における「すてきな大人になるために講座～性に関する学び～」、高校・大学での「すこやかな学校生活を送るために」など実際に行われている授業内容が紹介された。

### 座談会

司会：中村敦子氏

講師：菊池準子氏、野口亜弥氏

性の多様性について意見交換がされた。菊池氏より様々な人がいるように、性器の形もいろいろあり、性のあり方もいろいろあることを小さなころから多くの人に知っていただくことが大切であると述べられた。野口氏からは、スポーツは多世代の人が集まる場でもあるので性に関する情報を届け、多様性を伝えることができる良い機会であることが述べられた。

Q: 大人の認識を変えていくことが前提となるのでは。

A: 学校の参観日で授業を公開していくことや高齢な方が中学の学びをみる機会を作っていくことが重要であること、組織文化や行政を変えていくことが重要であり、地域で包括していくことが必要であることが述べられた。また、相談できる、認めてもらえる場所であるセーフティスペースを広めることが重要であると述べられた。

Q: 看護カリキュラム中に性教育をどのように取り入れていくか。

A: カルテの性別の記載や男女別の病室などに対して実習に行ったときなど、教員が学生に問いかけてみるのはどうかと提案された。毎日の生活の中に性教育できる場面はあり、アンテナを持っていることが重要であると述べられた。

Q: 看護学教育に求めること。

A: 看護教員だけではなく、専門家など外部の人の力を借りながら連携をしていくことが提案された。また、学生に疑問をもって投げかけていくことや、ヒューマンケア、人権を大切にしながら学生を育てていくことが重要であると述べられた。

Q: どのように対応したらよいのか気を付けるようなチェック方法があるのか。

A: 包括的性教育を行っていきながら、教育する側も学んでいくことが重要であることや自分では気づけないところがあるということや自分では気づけないところがあるということや自分の視点は欠けるところがあるということや思っていることが大切であると述べられた。

## おわりに

性教育、性の問題を看護教育につなげていくために、性教育、看護においても人権、人として生きていくことに根源があり、看護教育の中で、包括的に考えていくことが大切である。

看護教育の中では、領域に限らず、広く包括的に教育をしていくことが必要であり、ひとりひとりが大切な人間である、豊かな心を育てていくことにより性教育が繋がっていくと考える。

## 2. 委員会の開催

### 第1回国際交流委員会

日時：2023年10月3日（月）13：00～14：30

開催方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：(理事) 櫻井しのぶ、田村 由美  
(委員) 中村 敦子

議題：1. 研修会について（11月11日開催）

- 1) 事務局より進捗の報告
- 2) 中村先生より講師との事前打ち合わせ（9月29日）の報告
- 3) 研修会の当日業務の担当
- 4) アンケート設問について

2. 2024年度国際交流委員会事業活動について

- 1) 事業活動の拡充について

3. 今後のスケジュール

### 第2回国際交流委員会

日時：2024年2月14日（水）16：30～17：40

開催方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：(理事) 櫻井しのぶ、田村 由美  
(委員) 中村 敦子、若林 律子

議題：1. 研修会の振り返り

2. 2024年度事業活動計画案について

3. 2023年度事業活動報告について

4. 今後の理事会・社員総会スケジュール

## 3. 今後の課題

昨年度に引き続き、研修会は多くの会員校からの参加者を得ることができ、繰り返し視聴できる利点も確認できた。研修テーマとして寄せられている声は、国際看護学の取り組み、海外研修の内容、地域生活者の視点を理解する教育など多岐にわたっている。話題提供は、地域やテーマ等が偏ることなくできるだけ多くの会員校から行っていただきたいと企画している。国際交流の現状、課題、障壁、工夫、改革などを忌憚なく検討しながら交流できる場でありたい。



# 大学運営・経営委員会

担当理事および委員（○：委員長）

井上 智子 国際医療福祉大学 棚橋 泰之 神奈川歯科大学短期大学部  
 長澤 正志 淑徳大学 ○百瀬 由美子 日本赤十字豊田看護大学

## 1. 研修会

### テーマ：私立看護系大学の現状と展望

目的：私立看護系大学の現状を知ると共に経営戦略についての新たな知見を得て、私立看護系大学の経営を推進する。

開催日時：2023年10月23日（月）13：30～17：00

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

講師：南 浩司 氏（日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター私学情報室 室長）

飯島 隆介 氏（株式会社リクルート リクルート進学総研 研究員）

#### プログラム：

13：30～13：40 開会

13：40～15：10

講演1：「私立看護系大学の現状とこれからの経営戦略」

講師：南 浩司 氏

15：10～15：20 休憩

15：20～16：50

講演2「学生募集の現状と今後の展望」

講師：飯島 隆介 氏

16：50～17：00 閉会

当日参加者：（講演1）124名、（講演2）88名

動画配信期間：2023年10月31日～2024年1月31日  
 （講演2のみ）

動画視聴回数：371回

## 講演概要

### 講演1 南氏の講演内容

- 日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）のご案内
- 私立大学を取り巻く環境の変化
- 国の政策支援
- 私立学校法の改正
- 我が国の高等教育政策
- これからの私学経営
- 私学事業団の経営支援・情報提供事業 融資事業 寄付金事業のご案内

### 講演2 飯島氏の講演内容

- ブランド力調査から見る看護系大学のイメージ

について

- いまどきの高校生に対する効果的な募集広報について
- 高校生の進路選択行動影響調査(2023年9月実施)調査概要

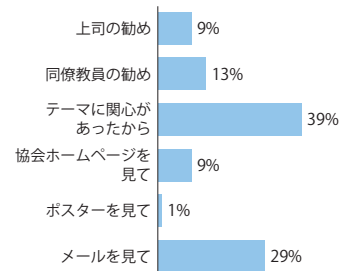
### アンケート結果（回答者53名）

#### 1) 参加者について

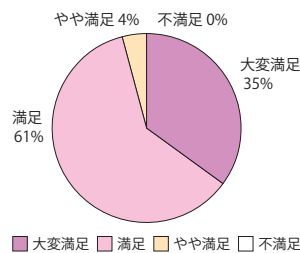
参加者の所属は、大学が96%、短期大学が4%だった。

#### 2) 職位について(N=52) 3) 参加のきっかけ

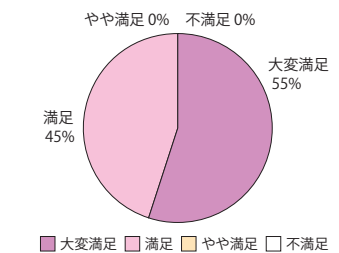
職位	人数	割合
教授	30	57%
准教授	4	8%
講師	1	2%
助教	3	6%
助手	1	2%
事務職員	13	25%
合計	52	100%



#### 4) 南氏の講演の内容に関する満足度



#### 5) 飯島氏の講演の内容に関する満足度



#### 6) 意見、感想など

- 大変厳しい現状が目の前まで来ているのだということ、若い世代の流行はあるかもしれませんが、これからの社会と教育理念を見つめることが重要であることについて考えました。また、情報をとりになくなった学生の学習についても考えていかなければならないと思いました。
- 現状にマッチした内容であり、非常に参考になりました。
- 私立大学を取り巻く環境の変化から高等教育の政策、法人としての私学経営と多岐にわたる内容で大変参

考になりました。特に、経営に関しては大学の存続にも関わる重要な内容でしたので、自大学の経営状況について再確認したいと存じます。また、ブランド戦略は自大学の課題でもあり検討はしておりますが、早急に方向性を決定する必要性を感じました。

## 2. 4年制大学の教育等に関する実態調査の実施と報告書の作成及び5年間の報告書の作成 (JANPU との合同)

調査依頼：10月11日に調査票（エクセルファイル）を送付

調査期間：10月16日から12月26日  
5年間の報告書の作成

## 3. 短期大学の教育等に関する実態調査の実施及び5年間の報告書の作成

調査依頼：10月11日に調査票（エクセルファイル）を送付

調査期間：10月16日から11月20日  
5年間の報告書の作成

## 4. 委員会

### 第1回大学運営・経営委員会

日時：10月4日（火）13：00～14：00

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：井上智子、棚橋泰之、長澤正志、  
百瀬由美子（五十音順、敬称略）

- 議題：1. 研修会（10月23日開催）について
- 1) 事務局より進捗の報告
  - 2) 研修会の当日業務の担当
  - 3) アンケート設問について
2. 2024年度大学運営・経営委員会事業活動について
- 1) 事業活動の拡充について
3. 今後のスケジュール

### 第2回大学運営・経営委員会

日時：2024年2月13日（火）13：00～13：45

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：井上智子、棚橋泰之、長澤正志、  
百瀬由美子（五十音順、敬称略）

- 議題：1. 研修会の振り返り
2. 2024年度事業活動計画案について
  3. 2023年度事業活動報告について
  4. 今後の理事会・社員総会スケジュール

## 5. 「看護系大学の教育等に関する実態調査」合同会議

### 第1回合同会議

日時：7月21日（金）10：00～12：00

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

- 議題：1. 2023年度看護系大学に関する実態調査内容とスケジュールについて
- 1) 設問項目の修正について
  - 2) スケジュールについて
2. 5年比較データ集計と図表について
3. データベース化（rawデータの活用）について

### 第2回合同会議

日時：11月27日（月）14：00～15：00

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

- 議題：1. 5年比較データ集計と図表の確認
2. データベース化（rawデータの活用）の検討
  - 1) 他の公的なデータベースサイトとの兼ね合いなどの検討
3. 実態調査（2022年度分データ）の進捗状況と情報共有
- 1) 主な質疑応答の回答来年度調査で必要な修正の項目の整理、確認
  - 2) Q&Aの追加と2024年調査での改善点
4. その他

### 第3回合同会議

日時：2024年2月8日（木）13：00～14：30

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

- 議題：1. 2022年度看護系大学に関する実態調査（2023年度実施）の集計について
- 1) 回収状況
  - 2) 分析コメントの担当について
  - 3) 集計時の注意点
2. 今後の報告書作成スケジュール
3. 今後の検討事項  
Q & Aの確認
4. その他  
5年度比較報告書作成のための合同会議の開催について

## 6. 今後の課題

- 1) 看護系大学の教育等に関する実態調査結果の活用  
会員校が実態調査の結果を有効に活用できるように、回答率を更に上げる。
- 2) 研修計画  
大学運営・経営強化のために年1回研修会を企画している。今後も、教育の質向上、学生の確保および補助金獲得等の大学運営・経営に資する知見が得られる企画を立案していく。

# 渉外委員会

担当理事および委員（○：委員長）

坂本 真理子 愛知医科大学 ○鳥袋 香子 北里大学  
長澤 正志 淑徳大学 三国 久美 北海道医療大学

渉外委員会では、看護教育に関する関連省庁や関係団体の動きに関する情報収集及び関連団体との連携活動を行いながら、本協会の発展に向けた取り組みを検討するための活動を行っている。

## 1. 要望書の提出

2023年度の要望書の発出に際し、事前に会員校より意見を聴取した。出された意見を踏まえ、自民党厚生労働部会看護問題小委員会（9月5日開催）に、2024年度概算請求に対し下記のとおり看護教育の問題提示と看護政策の要望を行った。

- ・看護教員の養成と雇用 および臨地実習施設における教育要員の配置
- ・看護学教育機関ならびに実習施設を含めたICTの活用体制の整備
- ・看護学教育のためのシミュレーション機器等の整備の充実と教育支援の体制整備
- ・看護系大学が使用可能な教材作成や教育支援のためのプラットフォームの構築と構築に向けた調査・研究
- ・地域における「健康危機管理ができる看護人材の育成」のための看護学教育の改革

## 2. 関係諸団体との連携

- ・4月1日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会委員に前年度より継続し坂本真理子理事が就任
- ・6月9日：JABNE 定時評議員会 Web 会議に鳥袋香子理事が出席
- ・8月29日：JANPU 高等教育行政委員会 Web 会議に鳥袋香子理事が出席
- ・9月5日：自民党看護問題小委員会に井上智子理事が出席
- ・9月20日：日本看護協会 ICN 事務局長懇親会に鳥袋香子理事が出席
- ・12月19日：自民党、厚生労働省、文部科学省、JANPU との会議

開催方法：Zoom による Web 会議

出席者：（参議院議員）石田昌宏、友納理緒（日本看護系大学協議会）鎌倉やよい、岸恵美子、石垣和子、宮本千津子、春山早苗、事務局（日本私立看護系大学協会）鳥袋香子、坂本真理子、三国久美、事務局（厚生労働省）医政局 看護課 2名

（文部科学省）高等教育局医学教育課 企画官 堀岡伸彦、高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊美和、総合教育政策局教育 DX 推進室室長補佐 野口宏志（敬称略）

- ・1月15日：JANPU 高等教育行政委員会 Web 会議に鳥袋香子理事が出席
- ・1月16日：文部科学省との会議  
開催方法：Zoom による Web 会議  
出席者：（日本私立看護系大学協会）鎌田佳奈美、河口てる子、鳥袋香子、長澤正志、三国久美（文部科学省医学教育課）堀岡伸彦企画官、渡邊美和看護教育専門官、課長補佐、他1名  
議題：本協会が自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について具体的に説明した。
- ・1月19日：日本看護協会との情報交換会に鳥袋香子理事が出席

## 3. 委員会の開催

### ① 将来構想検討委員会との共同会議

日時：2024年1月12日（金）13：00～13：35

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）鎌田佳奈美、坂本真理子、鳥袋香子、長澤正志、三国久美、（委員）河口てる子  
議題：自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について、文部科学省に具体的に説明するための事前検討

### ② 渉外委員会

日時：2024年2月21日（水）15：15～15：45

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：坂本真理子、鳥袋香子、長澤正志、三国久美  
議題：1) 2023年度事業活動報告について  
2) 2024年度事業活動計画について

## 4. 教育学術新聞への掲載

日本私立大学協会が発行する教育学術新聞に令和5年私学関係者「名刺交換」に掲載した。

## 5. 今後の課題

- ・自民党厚生労働部会看護問題小委員会に出す要望書に向けた事前準備を行う。
- ・各関係団体との連携を深め、必要な情報を収集し、会員校に還元していく。



# 広報委員会

担当理事および委員（○：委員長）

鎌田 佳奈美 摂南大学  
○守田 美奈子 日本赤十字看護大学

濱中 喜代 岩手保健医療大学

## 1. 会報第 49 号・50 号の発刊

(1) 会報第 49 号は 2023 年 5 月上旬に発刊

- ① 2022 年度事業活動報告
- ② 会員校の特色ある取り組みの紹介
- ③ 理事会報告
- ④ 事務局からのお知らせ

(2) 会報第 50 号は 2023 年 11 月上旬に発刊

- ① 会長挨拶
- ② 新規会員校紹介
- ③ 社員総会付帯事業講演会の内容
- ④ 会員校の特色ある取り組みの紹介
- ⑤ 2023 年度研究助成事業の選考結果報告
- ⑥ 役員一覧
- ⑦ 理事会・社員総会報告
- ⑧ 事務局からのお知らせ



## 2. ホームページ

- ・ホームページの利用状況について担当者から定期的に分析結果の報告を受け、現状を把握し課題に対する改善策を検討してきた。
- ・アクセス状況は、7月から9月がセッション数が多く、11月から12月は少ない傾向である。1月から2月にかけての研修企画がある場合は、セッション数が増加する。研修や研究助成に関するお知らせなど配信する情報と連動してアクセス数の増減パターンを

繰り返している。

- ・会員校ページのアクセスも多いため、会員校情報ページの課程の絞り込み機能について、チェックボックスを活用することで、より検索しやすい方法に改善した。各会員校情報を本協会の HP から入手しやすいことが本協会 HP の特徴ともなっていると思われるため、アクセス数の変化を評価しながら検索方法の検討を継続したい。
- ・研究助成に関する情報は、新規ユーザーの利用が活発であり、研究助成制度に関する会員の関心が高いことが分かる。
- ・英語ページの充実を図るための検討を行い、HP に自動翻訳機能を用いた方法を検討した。翻訳機能の活用により本協会の HP 内容の多くが、迅速に英文ページに反映されることになり利便性が高まることに繋がる。

## 3. 2022 年度年次報告書の発刊

2023 年 7 月初旬に発刊

## 4. 委員会の開催

### 第 1 回 広報委員会

日時：2023 年 4 月 27 日（木）14：00～15：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネア（株）河口氏、禰覇氏

議題：1. ホームページのアクセスレポートと改善案について

(1) アクセスレポートの報告

(2) 改修について

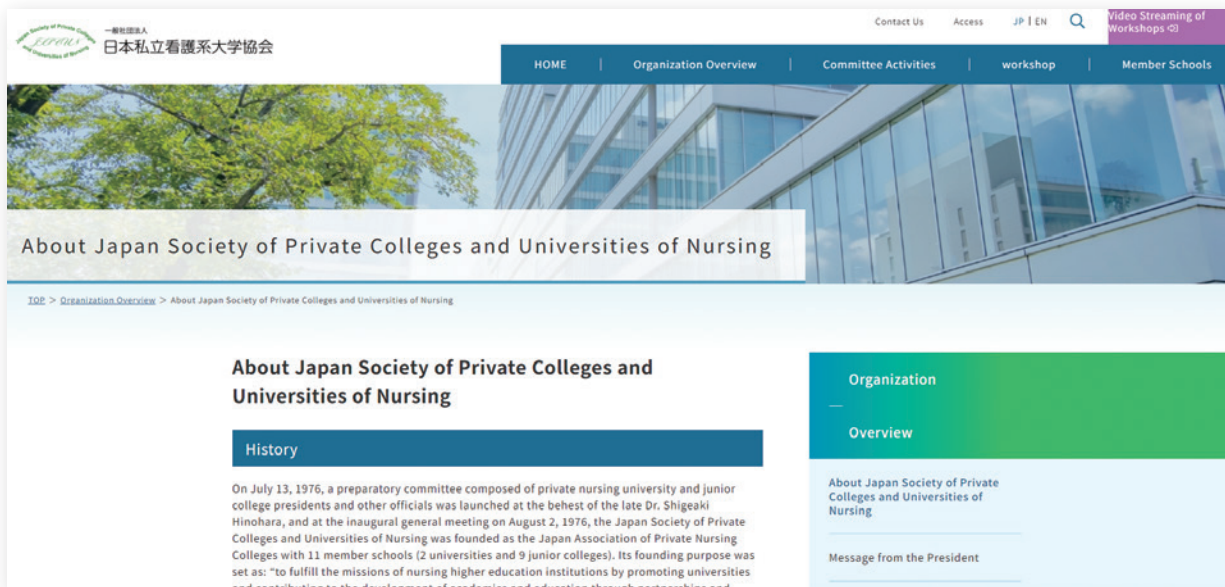
2. 会報第 50 号の記事構成について

### 第 2 回 広報委員会

日時：2023 年 8 月 1 日（火）10：00～11：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）



日本私立看護系大学協会 HP  
<https://www.jspcun.or.jp/>



コーディア（株）河口氏、染谷氏

議題：1. ホームページのアクセスレポートと改善案について

- (1) アクセスレポートの報告
- (2) 会員校情報ページについて
- (3) 英語ページについて

2. 会報第 50 号の記事構成について
3. 委員会活動の拡充について

### 第 3 回 広報委員会

日時：2023 年 11 月 6 日（月）10：00～11：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディア（株）河口氏

議題：1. ホームページについて

- (1) アクセスレポートの報告
- (2) コーディア（株）からのご要望
- (3) 看護の魅力向社会に向けて発信するページについて
- (4) 英語ページの作成について

2. 2024 年度事業活動について

### 第 4 回 広報委員会

日時：2024 年 2 月 5 日（月）10：00～11：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディア（株）河口氏

議題：1. ホームページについて

- (1) アクセスレポートの報告
- (2) 英語ページの作成について

2. 2024 年度事業活動計画
3. 2023 年度事業活動報告
4. 会報第 51 号について
5. 今後のスケジュール

## 5. 今後の課題

- 1) HP に関する定期的な業者との打ち合わせ会議を継続すると同時に、迅速かつ適切な情報配信を行うことで HP の充実を図る。
- 2) 新デザインのニュースレター発行（年 2 回）を継続すると同時に、さらなる紙面の充実を図る。
- 3) 看護の魅力向社会に発信するための広報活動の検討を行う。
- 4) 英語ページの充実を図る。

# 将来構想検討委員会

担当事務および委員（○：委員長）

鎌田 佳奈美 摂南大学  
 ○三国 久美 北海道医療大学 (委員) 坂本 真理子 愛知医科大学  
 (委員) 河口 てる子 聖隷クリストファー大学 (2023年7月29日から)

将来構想検討委員会は、本協会の財政的基盤を踏まえ、将来を見据えた組織や活動のあり方を検討し、本協会が取り組む課題を明確にし、私立看護系大学の発展に結びつく活動を推進するため、2023年度に組織化された委員会である。2023年度は、私立看護系大学の課題を明らかにし、その解決に向けた活動を行うこと、そして、少子高齢化が進展する中、本協会に求められる事業を新たな視点で検討し事業活動を推進させることという2つの趣旨に沿って活動を行った。具体的な活動内容として、各委員会に活動の見直しと拡充の検討を依頼するとともに会員校のさらなる連携と協力を推進するため地区活動委員会の設置を提案した。また、会員校の看護学教育の推進に資する助成を行うことを目的としたポストコロナにおける看護学教育推進事業の検討を行った。さらに、本協会の諸問題に関する調査研究を行う私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）の設置について検討した。

## 1. 委員会の開催

### (1) 第1回委員会

日時：2023年6月14日（水）16：30～18：00

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：(理事) 鎌田佳奈美、坂本真理子、  
三国久美、(会長) 鳥袋香子

議題：1) 委員長の決定  
2) 2023年度将来構想検討委員会の事業活動について  
3) 協会の事業活動計画について  
4) 次回委員会の開催

### (2) 第2回委員会

日時：2023年7月16日（日）12：50～15：20

会場：駅前会議室アーバン（神奈川県横浜市西区高島2丁目11-2 スカイメナー横浜 709号室）

出席者：鎌田佳奈美、坂本真理子、三国久美

議題：事業活動計画について

### (3) 第3回委員会

日時：2023年10月16日（月）15：00～16：20

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：(理事) 鎌田佳奈美、坂本真理子、  
三国久美、(委員) 河口てる子

議題：1) 委員会活動の拡充について  
2) 私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）の設置

3) 委員会活動以外の事業案

### (4) 第4回委員会

日時：2024年2月17日（土）9：00～10：00

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：(理事) 鎌田佳奈美、坂本真理子、  
三国久美、(委員) 河口てる子

議題：1) 事業活動について  
2) 2024年度将来構想検討委員会事業活動計画案について  
3) 2023年度将来構想検討委員会事業活動報告について  
4) 今後の理事会・社員総会 スケジュール  
5) その他

## 2. 執行部理事との共同会議

日時：2024年1月12日（金）13：00～13：35

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：(理事) 鎌田佳奈美、坂本真理子、鳥袋香子、  
長澤正志、三国久美、(委員) 河口てる子

議題：自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について、文部科学省に具体的に説明するための事前検討

## 3. 文部科学省との会議

日時：2024年1月16日（火）15：30～16：30

開催方法：ZoomによるWeb会議

出席者：

(日本私立看護系大学協会)

鎌田佳奈美、河口てる子、鳥袋香子、長澤正志、  
三国久美（五十音順、敬称略）

(文部科学省医学教育課)

堀岡伸彦企画官、渡邊美和看護教育専門官、  
課長補佐 他1名

議題：本協会が自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について具体的に説明した。

## 4. 今後の課題

・会員校は、看護の質向上や人材育成だけでなく、地域住民の健康支援を行う役割を担っており、感染症の流行や災害等の発生時には住民の健康危機に対応すべく尽力している。会員校の更なる連携と協力を推進させるために求められる本協会の事業活動を検討する。



- ・私立看護系大学には、時代の変化を見据え、教育・研究・経営力を研ぎ、魅力的な大学として自校の特性をアピールできる対策を打ち出していくことが必要である。同時に私立看護系大学が抱えている課題を社会にアピールし、政策支援を得ることが必要で

ある。これらの課題に対応し、日本私立看護系大学協会としての活動や会員校を支援するための調査研究を行う将来構想研究機構（仮称）の設置について継続して検討する。

## 2024年度助成事業のお知らせ

- ・教育活動助成事業（ポストコロナにおける看護学教育推進事業）
- ・研究助成事業（募集中）
- ・先駆的な国際交流活動を行っている大学の視察調査等に関する助成事業
- ・会員校の連携による地区活動への助成

## 2024年度研究助成応募受付中

### 2024年度研究助成事業

応募締切り：5月20日

一般社団法人日本私立看護系大学協会では、看護学研究者の育成とさらなる向上発展を奨励するため、研究助成事業を行っております。募集要項および応募書類は、本協会ホームページからダウンロードできます。1会員校当たり各助成に1件応募可能です。ご応募をお待ちしています。

#### 1. 看護学研究奨励賞

- (1) 対象者：会員校の本務教員<sup>\*</sup>で、2023年4月1日から2024年3月31日までに英文による原著論文などを、国際学術誌や学術団体誌・専門誌に公表し、看護学研究に貢献した者。ただし共同研究の場合、応募者は筆頭著者であることとします。

<sup>\*</sup>本務教員とは専任教員及び週5日以上出勤する有期雇用の教員

- (2) 採択件数：20件程度  
 (3) 表彰：賞状および副賞（10万円）が授与されます。

#### 2. 若手研究者研究助成

- (1) 対象者：会員校の本務教員で、以下の要件を満たす者としてします。ただし、他機関から同一研究課題により助成が決定している場合は対象とはなりません。なお、共同研究の場合、応募者は筆頭研究者であることとします。

- ①応募時、満45歳以下の講師、助教および研究者番号を有する助手。  
 ②応募時から2年以上会員校に在籍する（採択後2年間会員校に在籍し研究を全うできるようにするため）。  
 ③研究成果について本法人主催研究セミナーで報告できる。

- (2) 研究期間：採択日から2026年3月31日まで  
 (3) 採択件数：15件程度  
 (4) 研究助成：1件50万円を上限とする。残金が出た場合は返金すること。

#### 3. 国際学会発表助成

- (1) 対象者：会員校の本務教員で、2024年4月1日から2025年3月31日までに開催される国際学会に発表を行った者および発表予定者（演題登録が開始されていなくても発表予定であれば可能）とします。  
 (2) 採択件数：10件程度  
 (3) 助成金：1件20万円。残金が出た場合は返金すること。

学会発表の採択通知証または学会演題登録の写しなどを提出してください。採択通知証が応募時に手元にない場合は後日提出してください。

# 富山福祉短期大学 看護学専攻科のご紹介

長谷川 雅美（富山福祉短期大学学長 看護学専攻科長）

## はじめに

まず本学についての紹介をさせて頂く。富山県は他県に比して看護系の大学のみならず大学が少ない県である。本短期大学は県中央部にある射水市（いみずし）に立地している私立の短期大学で、学校法人浦山学園が運営している。1966年開設の予備校、さらに経済の専門学校の設定に端を発し、短期大学としては1997年に社会福祉学科を開学したのが始まりで、その後2008年に看護学科（定員80名）が設置された。現在の短期大学には、看護学科、社会福祉学科、幼児教育学科があり、それぞれの学科で国家資格等を有する専門家の育成を目指している。

専門学校は富山情報ビジネス専門学校と改名し、情報システム学科、Webクリエイタ学科、日本語学科等、短大にある医療福祉領域とは異なる12の学科があるが、同じキャンパス内にあり、学園内では短期大学と共存して教育活動をしており、教職員の交流がある。

## 1. 専攻科看護学専攻について

今回特色ある学科として紹介するのは、「専攻科看護学専攻」についてである。

専攻科看護学専攻（以下専攻科）は、国内では通信制を除く通学1年コースとして初めて2022年4月に設置された看護学士取得ができる学科である。入学できるのは、3年制の短期大学看護学科や看護学校を卒業し看護師国家試験に合格した学生であるが、すでに臨床で活躍中の看護師や、様々な都合でいったん看護業界を去った看護師で再び学び直したい人にも門戸を開けている。すなわち、看護師有資格者ならだれでも入学生としての資格があり、入学することができる。たった1年で4年制大学卒業と同じ学士として学位が得られることは今後看護師のキャリアを充実していく

うえで大きな進展につながると思う（図1）。

現在は、本学卒業の国家試験合格者が引き続き入学してくることが多い。学士を取得するには学生が個々に大学改革支援・学位授与機構の審査を受ける必要がある。専攻科では31単位以上の単位修得を必須とし、上述の学位授与機構に作成した論文を送付し、後日学生が個々に筆記試験を受け審査される。

## 2. 看護学専攻科の特長

専攻科1年間の学修内容の中で一番の特長は、学生が仕事に従事しながら本学で学ぶことができ、しかも病院や施設などで働くことが「看護実践研修」という研修として10単位の必修科目になり、専攻科修了に必要な単位として反映されることである（図2）。

学生は専攻科の合格通知を受けたら、入学前に病院や施設などの研修場所を自ら選定し、入学時にスムーズに研修が開始できるよう手続きを終えておくことが必要である。研修内容は学生の選んだ研修場所との契約内容により異なる（給与、研修時間、期間など）。現在、学生は様々な実践の場で研修しているが、研修の中で研究テーマを見出し、研究計画をたてる。その後、倫理審査を経て指導教員のもとで卒業論文を完成させ、学位授与機構に論文を送付して審査を受けることになる。臨床で働いている看護師はそのまま今の職場で働きながら学ぶことができ、それが研修となる。まだまだ宣伝不足で、学生数は少ないが、卒業した学生は県内外のそれぞれの職場で看護師として活動しており、更に助産師などの専門性を求めて進学する学生もいる（図1）（図3）。

## 3. 看護学専攻科がめざすこと

現在、専攻科では、本学の基本理念でもある地域と



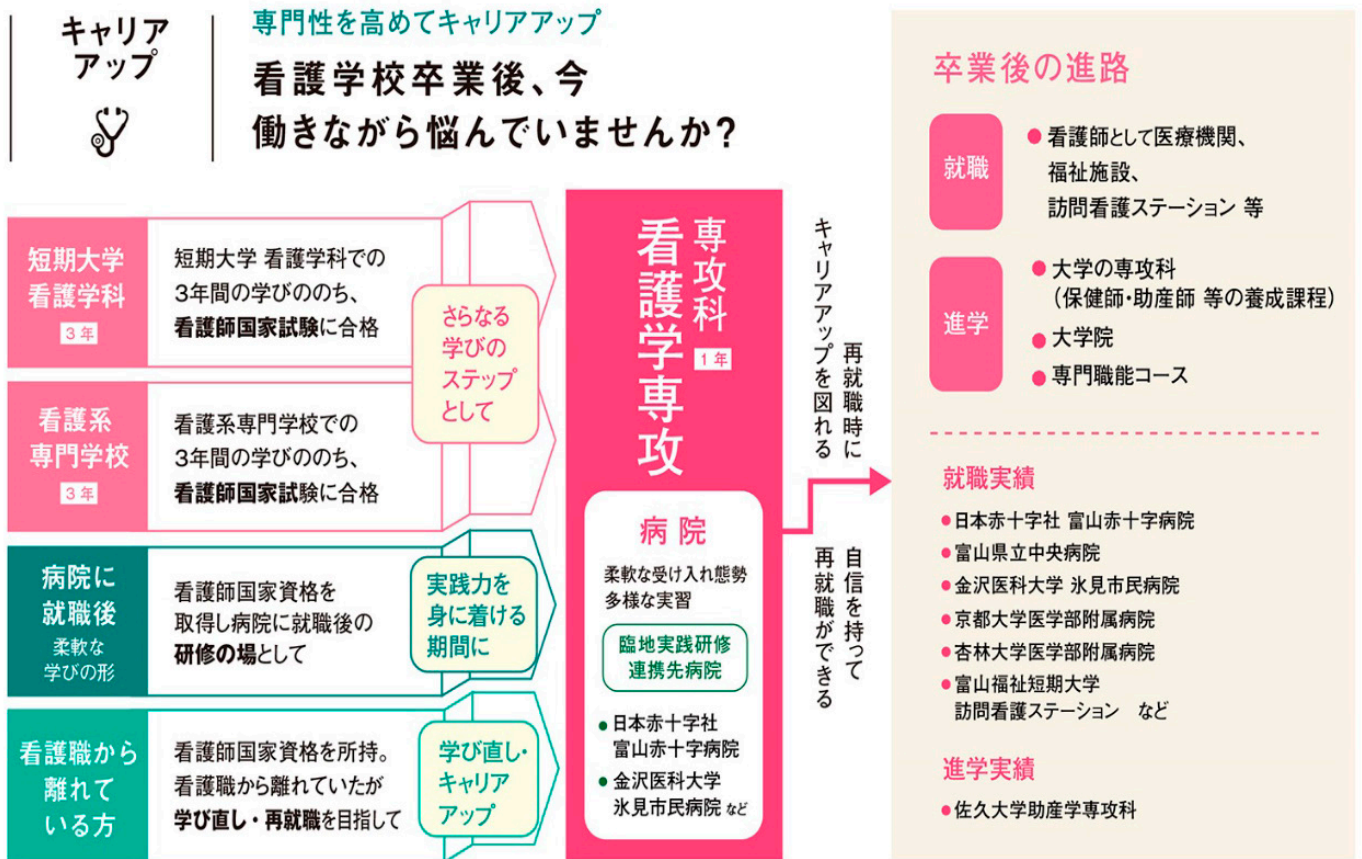


図1 専攻科看護学専攻の入学経路



図2 カリキュラムの特徴



## 臨地実践研修



金沢医科大学 氷見市民病院

提携先の病院や訪問看護ステーションで働きながら学びます。看護師資格を取得しているので、学科の実習よりも踏み込んだ医療を提供できます。

図3 臨地実践研修の実際

の連携を基盤とした看護支援の在り方を検討し教授している。新年度からさらに内容を充実して「地域包括ケア論」の中で、専攻科の学生が地域でのフィールドワークから、学生として対応可能な課題を見出し、実践活動につなげ、それをテーマとしたグループワークをする。

ところで、在学中の学生が最も力を注ぐのは、何といっても卒業論文の作成である。各自が選んだテーマを研究計画書作成から倫理審査を経て、データ収集、分析、論文作成と一連の研究プロセスを基本から理解し、取り組むことが求められる。約半年間で仕上げなければならない研究論文の作成はかなり大変な作業であるが、一人一人に教員アドバイザーが付き、今のところ全員が学位授与機構の審査に合格し、学位を取得している。本専攻科の卒業生が研究をまとめる基本的知識をしっかり身に付けて、今後臨床など実践現場で生じる様々な課題を追求する視点が育ち、研究につなげる態度を続けてほしいと願う。

専攻科は、すでに看護師の資格を有していることから、より実践的な看護を主体的に学ぶ機会として、また1年で学士資格を得る機会として有効であると思う。科目履修制度も設けており、受講者や職場の都合に合わせた学修も可能である。

専攻科の課題としては、現場研修を含め学内講義を主としているため、今は看護学科卒業生や県内の学生が在籍しているが、今後はオンライン授業など多角的な方法を検討し学生数を獲得していかなければならないと考える。

最後に今年卒業した臨床看護師からのインタビューを本人の同意を得て紹介する(図4)。

## 学生の声

Case-1 看護師からさらなるキャリアアップを目指して



主体性を重視する学びを通して  
自分の変化と成長を実感!

富山市民病院 高場 千尋さん

2023年度 富山福祉短期大学 専攻科修了  
(2010年度 富山福祉短期大学 看護学科卒業)

看護師になって10年過ぎた頃から、後輩や看護学生の指導をする立場として、自分もレベルアップしたいという思いが日々強くなっていきました。働きながら学ぶのは難しい気がしていたのですが、看護学専攻の開設を知り、オープンキャンパスに参加。学長でもある専攻科長から直接、「働きながらでも大丈夫」と背中を押していただきました。職場の看護師仲間が「また学べるなんてうらやましい」とサポートしてくれたのも心強かったですね。

看護学専攻では、主体性が重視されます。自ら探究し、相手のことを考え、伝えるという学習法は、消極的だった私を成長させてくれました。

先生方はそれぞれの看護観をお持ちなので、臨床経験のある看護師として講義を受けると、より共感できます。特に、振り返りを通して学ぶことは多く、患者さんにどう対応したかを文章化し、評価してもらえるのも魅力でした。

修了後は、外来の指導や看護学校の講師もできるエキスパートナースの資格を取得し、教育の分野でも貢献できる看護師として、今後も看護研究を継続していきたいと思っています。

図4 学生の声

# 愛知県地区活動プロジェクト

## 「看護の魅力を発信！」報告

愛知医科大学看護学部、一宮研伸大学看護学部、金城学院大学看護学部、修文大学看護学部、  
 椙山女学園大学看護学部、中部大学生命健康科学部、豊橋創造大学保健医療学部、  
 名古屋学芸大学看護学部、名古屋女子大学健康科学部、日本赤十字豊田看護大学看護学部、  
 日本福祉大学看護学部、人間環境大学看護学部、藤田医科大学保健衛生学部

### はじめに

愛知県の私立看護系大学13校は、令和5年度の日本私立看護系大学協会による地区活動プロジェクトに採択され、共同でイベント「看護の魅力を発信！」（以下イベント）を企画・運営いたしました。本イベントは、将来の看護を担う中学生や高校生（以下中高生）など若い世代へ看護学の魅力をアピールし、将来看護学を学びたいと思う人材を増やしていくことを目的としたもので、令和5年12月25日、名古屋市国際センターにて開催しました。地区活動プロジェクトの一環として実施したイベントの概要と今後の課題を報告させていただきます。

### 1. プロジェクト企画・運営の方法

地区活動プロジェクトへの申請にあたっては、まず愛知県の私立看護系大学13校（以下13校）の代表者で方向性を話し合いました。助成が決定してからは、事務局を2名の理事が所属する2校に置き、13校全体で話し合う全体会と並行して企画委員会を組織しました。企画委員には各校から2名選出し、2～3校の企画委員が担当を分担し、具体的な企画を検討しました。情報を共有し、必要な議論を行う全体会は、イベント終了後の振り返りを含め計4回開催し、円滑な運営ができるようにいたしました。イベント運営は、企画委員、各校の代表者、各校の職員、学生ボランティアなど多くの皆様のご協力をいただきました。広報活動として、各大学のホームページやSNSからのイベント紹介や各大学が関係を持つ中学校や高校へのイ

ベントチラシの配布、地元の新聞の市民欄でのイベント告知を行いました。イベント当日はNHKのニュースでも取り上げてもらいました。

### 2. プロジェクトの内容と参加者の反応

#### 1) 看護職と看護学生による講演

テーマを「きらきらナース☆ナースのたまごの話聞いてみよう☆」とし、看護職および、看護学生計10名による講演を企画しました。講演内容は、看護学生の大学生活のイメージ化、看護職のキャリアや男性看護師の活動の紹介とし、中高生が集中できるように短時間での多彩な講演形態としました（写真①）。講演スケジュールは、別会場での展示と行き来し、聴きたい講演を聴けるように午前と午後の2部構成としました。テーマを設定したうえで依頼したことにより、各専門分野での看護職の活躍についての講話を聴く機会の提供や、大学で看護を学ぶことの意義や私立大学の教育の良さについて講演の中に盛り込まれ、企画意図の達成度は想像以上であったと考えます。当日は活気ある会場運営を心掛け、講演スケジュールのフライヤーの配布、エントランスでの講演別ポスターの掲示、講演の合間は大学生活の様子をスクリーンでの紹介をしました。友人や保護者と参加されたり、学校帰りの制服姿の中高生は、講演に引き付けられた様子でした。聴きたい講演に合わせて何度も会場を訪れる参加者の姿もあり、憧れる姿として看護の魅力が発信できたと考えます。



きらきらナース☆  
ナースのたまごの話聞いてみよう☆

I F 別棟ホール TIME TABLE

午前の部	
10:05 看護師	病棟看護師の仕事
10:30 保健師	保健師の仕事
10:55 学生(女性)	“ナースのたまご”の大学生活
学生(男性)	保健師という選択肢
11:30 フライトナース	看護の魅力を発信！フライトナース

午後の部	
13:35 看護師(男性)	男性看護師の活躍
14:00 助産師	『助産師』
14:25 学生(女性)	大学4年間で感じた看護の魅力
学生(男性)	看護師になろうと思ったきっかけ
15:00 国際人道支援看護師	赤十字の看護師として 私の医療救助の経験

写真① 講演スケジュール



写真② VRの視聴



写真③ AYA世代がん患者の支援展示

## 2) Virtual Reality (VR) を使った看護現場の体験

本イベントでは、医療現場の臨場感と看護の魅力を広く伝える目的でVRブースを開設しました。このブースでは、4大学の教員および関係の医療機関の協力を得て共同制作したVR動画を来場者に視聴していただきました。VR動画には、ドクターヘリの出動、大学病院での患者看護、日本赤十字社の献血ルームでの献血活動が含まれており、まるで現場にいるかのよ

うな没入感を体験できます。来場者は、専用のVRデバイスであるMeta Quest 2<sup>®</sup>を使用してこれらの動画を視聴しました(写真②)。なお、VR視聴は複数の大学の学生ボランティアがサポートしてくれました。参加者からは「VRで看護現場を体験でき、非常に臨場感があった」「看護師の仕事への理解が深まった」といった肯定的な感想が寄せられました。





写真④ 現役ナースと看護学生との座談会

### 3) AYA 世代のがん患者さんへの支援についての展示

近年、がん教育について文部科学省が学習指導要領に位置づけ、各学校で授業が行われるよう、全国展開が進められています。がんは愛知県民の死亡原因の第1位であり、県民の健康にとって重大な問題です。そこで、今回のイベント対象者である中高生を示す「AYA 世代がん」をテーマに、同世代である AYA 世代がん患者をサポートする看護師の役割を知っていただく中から看護の魅力を発信していくことを目的としました。A1 サイズのポスター 10 枚の中に、がんの総論・AYA 世代がんの悩み・就学の継続の困難に関するデータと共に、AYA 世代がん患者の支援に携わっている 3 施設 4 名の専門看護師・認定看護師の具体的なサポートや考えを生き生きと働く様子の写真と共に掲示しました（写真③）。イベント当日は、同じ世代でもがんに罹患する事実を知るとともに、スペシャリストである専門看護師・認定看護師の存在を初めて知る中高生が多く存在しました。さらに患者の個別性に応じた支援をしている「看護師」へ関心をもって説明を聞く姿が多く見受けられました。

### 4) 現役ナースと看護学生との座談会

看護師や看護系大学への進学に関心のある中高生や保護者の皆様が、現役の看護師や看護学生に直接質問できる交流の場を企画しました。多くの来場者は、他の企画の参加を通し看護師や看護系大学に関心を高めた後、本会場を訪れ 30 名を超える参加者がありました（写真④）。交流内容の一例として、「実習で嬉しかったことは何ですか」「実習では何が大変でしたか」「実習中は十分に睡眠が取れますか」など臨地実習に対する質問や、「人の命を預かる重圧に耐えられるでしょうか」「夜勤はどれくらい大変ですか」など看護師の責務に対する質問が多く見受けられました。また、大

学を選ぶ基準や合格に向けての勉強法など、看護系大学への進学に向けた具体的なアドバイスを求める質問も多くみられました。全般的に、和気あいあいとした雰囲気の中で、看護師や看護学生の丁寧な対応によって、参加者に看護の魅力を伝え、看護系大学への進学を考える機会を提供できたと思います。

### 5) 記念撮影ブース・大学の魅力紹介

大学の魅力紹介・記念撮影ブースでは、来場者に 13 校の魅力を紹介しました。13 校の紹介 VTR を編集し、会場内でループ放映をいたしました。各大学の強みが PR されており、附属大学病院があるからこそ最新の医療現場とタイアップした教育や、助産師や保健師など看護専門職の将来像を展望したカリキュラムなどが紹介されました。また、大学紹介パンフレットを来場者が自由に手に取ることができるブースをつくりました。来場者の中には、すべての大学のパンフレットを持ち帰る方もおられ、関心の高さが伝わってきました。記念撮影ブースでは、大学附属病院のハイブリッドオペ室の写真パネルを設置しました。親子や友達同士で明るく写真撮影する姿がみられました。

### 6) クイズラリーと大学のノベルティギフト・記念品

クイズラリーは、参加する中高生が、看護の魅力発信の各ブースを巡り、最新の看護についてクイズを解きながら看護への関心を高める目的で行いました。展示室の「AYA 世代がん支援」「VR 体験」と別棟ホールの「看護活動の講演」のブースからそれぞれクイズを出題し、バラエティに富んだ内容となりました。中高生は、各ブースを熱心に巡り、体験した内容について確認をしながらクイズに挑戦していました。最後にクイズラリー受付で、クイズの答え合わせを行い、景品をプレゼントしました。クイズラリーの景品には、企画した 13 校の協力を得て、大学ノベルティを用意

しました。中高生は、各大学オリジナルの文具やバッグ、キーホルダー、マグボトルなどから、悩みながらも楽しそうに好みの景品を選んでいました。また、イベント参加の記念品として日本私立看護系大学協会のロゴ入りのポーチを準備し、参加者にも好評でした。

### 3. プロジェクト参加者のアンケート結果

参加者アンケートには72名（中高生47名、保護者13名、その他12名）から回答がありました。「きらきりナース☆ナースのたまごの話聞いてみよう☆」では、午前中の時間帯の方が、参加者が多い傾向がありました。特に看護職（看護師・保健師）や現役大学生の講話、フライトナースなど最前線で活躍する看護師の講演に人気がありました。また、展示室での企画では、看護師のリアルがバーチャルに体験できる「VRを使った看護現場の体験」への関心が高く、その他として「AYA世代のがん患者への支援」のパネル展示や「クイズラリー」、「現役ナースと看護学生の座談会」などにも興味を持つ方が多くいました。プロジェクトに対する満足度は、すべての方が「満足した」という回答でした。また、参加後の看護への関心は、「高くなった」と69名（95.9%）の方が回答しました。アンケートの結果から、本プロジェクトの開催は中高生に対し看護の魅力を届けることに一定の効果があったと考えます。

### 4. プロジェクトを通して得られたもの

イベント終了後に13校の代表者及び企画委員が本プロジェクトの企画・運営を振り返り、プロジェクトによって得られたことと課題について検討しました。多くの教員たちはイベントに共同して取り組むことにより、新たな出会いがあり、情報交換を通じて、他校

の取り組みを知り、刺激になったととらえていました。企画内容は、日頃大学がオープンキャンパスで対象とするものよりも幅広い対象者をターゲットとしており、各大学の今後の広報や対象者の拡大の検討への示唆も得られたと思います。一方で、実際のイベント企画・運営については課題も出てまいりました。企画から開催までの期間が短かったことから、メインターゲットであった中高生に届く広報活動が十分にできなかったこと、中高生が集まりやすい時期と場所の選定、担当する教員たちの負担などの課題です。

### 5. まとめ

愛知県は比較的古くから看護系大学のネットワーク会議などが組織され、情報の共有がしやすい環境にあったと思います。今回、実際に一つのプロジェクトに取り組むことで、プロジェクトに関わった教員同士の交流が更に進み、発想や教育方法などで学び合うことが多かったと考えます。また、各大学が広報のメインターゲットとしている対象者を更に拡大することの意義についても実感が持てたことは重要な気づきでした。自大学を超えて共同で取り組むプロジェクトは、各大学がそれぞれ取り組むよりも大きな効果が期待されますが、大掛かりになればなるほど、準備にかかる時間やエネルギーが必要となります。今後も継続されていく地区活動プロジェクトの運営方法については、今回の体験をもとに、改善点などを提言していければと思っております。

このような貴重な機会をいただきましたことを、日本私立看護系大学協会にお礼申しあげるとともに、一緒に取り組んでくださいました教職員の皆様、全面的に協力して下さった保健医療機関・学校関係者の皆様に感謝申し上げます。

## 被災地の皆様へ

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」において被災された方々に心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復興を祈念いたします。また、被災地域で懸命にがんばっている皆様、現場支援の最前線に立っていらっしゃる方々に、深く敬意を表します。

本協会では、2023年度より各地区の会員校の協働活動に助成事業をスタートさせました。現在、各地区における会員校の連携・協働を進め、地域活動を行え

るよう検討を進めておりますが、災害時の支援活動に向けて、日本看護系大学協議会の災害支援対策ネットワークを始めとする関係諸団体等との連携を進めてまいります。

会員校の皆様には、被災地の会員校と連携・協働した支援を検討いたしますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本私立看護系大学協会会長  
島袋 香子

## 理 事 会 報 告

## 2023 年度第 3 回定例理事会

日時：2023 年 11 月 25 日（土） 15：00～17：45

## 審 議 事 項

## 1. 事業活動の拡充

## (1) リクルート社からの提案

「未来の看護師を増やす支援策」として、看護師の魅力を広く届けるとした提案があった。私立看護系大学の発展へ資する議論を進め、継続審議することとなった。

## (2) 特別助成事業

2024 年度に「ポストコロナにおける看護学教育推進事業」を実施することとなった。

## (3) 委員会活動の拡充

各委員会活動について、各委員会の課題を検討し、2024 年度事業活動計画の骨子案は引き続き検討することとなった。

## 2. 選挙について

2024 年度役員候補者選挙選挙のスケジュールと理事定数について確認し、選挙管理委員会委員の候補者を検討した。

## 3. 規程等の改正について

## (1) 事務業務規程

事務局長の職務を規定し、新たな職制として主任を置くことが承認された。

(2) 事務局職員給与規程、交通機関に変更を生じた場合等の通勤手当の精算方法に関する要領

通勤手当の精算方法に関する精算方法が承認された。

## (3) 経理規程施行細則（別表 1 勘定科目表）

勘定科目の新設と変更が承認された。

## (4) 事業活動会計取扱い規程

助成事業の拡充に伴い規程の変更が承認された。

## (5) 会長表彰規程（様式 1 推薦書）

推薦者の押印を削除するなど、会員校への負担軽減と合理化のための変更が承認された。

## 4. 2024 年度研究助成事業について

## (1) 研究助成事業規程施行細則の改正

採択件数を増やすことが承認された。

## (2) 2024 年度研究助成募集要項と応募書類について

応募システム導入にかかる募集要項の変更が承認された。また、文言を整理し、規程を変更することが承認された。

看護学研究奨励賞の選考基準「論文としての完成度」について、既に査読を受けている論文についての完成度を選考基準とすることに疑問が出され削除することが承認された。

## 報 告 事 項

## 1. 各委員会事業活動報告及び会計内訳

事業活動報告書と会計内訳に基づき、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会の事業活動報告があった。

## 2. 2023 年度中期決算について

3. 看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針について

厚生労働省医政局、職業安定局および文部科学省高等教育局の連名で基本的な方針が出されたことが報告された。

## 2023 年度第 4 回定例理事会

日時：2024 年 3 月 9 日（土） 13：00～15：45

## 審 議 事 項

## 1. 2024 年度特別事業

## (1) ポストコロナにおける看護学教育推進事業

1 校 10 万円の助成をすることとした。

## (2) 看護学を学ぶ魅力発信事業

進研アド社に依頼することとした。

## (3) 一般社団法人日本私立看護系大学協会附置私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）

継続検討していくこととした。

## 2. 2024 年度事業活動計画と予算について

各委員会の 2024 年度事業内容と担当理事数を確認し、地区活動委員会を新設することが承認された。また、50 周年記念事業準備委員会については次期理事会で検討することとした。

## 3. 2024 年度予算について

次回理事会で正式承認することとした。

## 4. 2024 年度社員総会運営方法と付帯事業（講演会）について

2024 年度社員総会は前年度同様に、正会員が会場に参集することなく、Web による事前説明会と議決権行使書（郵送）による決議とした。6 月下旬から 7 月初旬に、事務局より各会員校の正会員 3 名へ社員総会資料と議決権行使書を送付し、正会員は議決権行使書を返信用封筒にて事務局へ返送することとした。定時社員総会に先立ち、7 月 12 日（金）に議事事項に関する説明会をインターネットを利用した遠隔会議で開催し、定時社員総会は会長および理事・監事等の少人数の出席者と議決権行使書により審議事項について決定することとした。

## 5. 2024 年度研究助成事業選考委員について

## 6. 規程の改正

(1) 役員候補者選出規程、選挙管理委員会規程について  
改正が承認された。

## (2) 委員会規程について

2024 年度の委員会活動の拡充に合わせた変更が承認された。

## (3) 事務局職員給与規程について

ノーワーク、ノーペイ、生理休暇について承認された。

## 報 告 事 項

## 1. 選挙管理委員及び立合人について

報告があった。

## 2. 2023 年度事業活動報告と予算執行状況について

事業活動報告書と会計内訳に基づき、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会の事業活動報告があった。

## 3. 2023 年度決算について

2 月 16 日時点での決算状況の報告があった。

## 4. 若手研究者研究助成研究期間の延長について

能登半島地震に伴う研究期間の延長を認めたとの報告があった。

## 5. 看護学教育の実態調査のデータベース化について

JANPU と合同で実施している「看護系大学に関する実態調査」のデータベース化は、政府統計ポータルサイト（e-Stat）等においても統計処理が可能な各データが提供されており、両会の予算などを勘案し、データベース化を進める合理的理由は少ないという結論に達したことの報告があった。



# 事務局からのお知らせ

## 2024 年度社員総会について

2024 年度社員総会は前年度同様に、正会員が会場に参集することなく、Web による事前説明会と議決権行使書（郵送）による決議とします。6 月下旬から7 月初旬に、事務局より各会員校の正会員 3 名へ社員総会資料と議決権行使書を送付します。正会員は議決権行使書を返信用封筒にて事務局へ返送してください。

### ■議事事項に関する説明会

7 月 12 日（金）にインターネットを利用した遠隔会議で開催します。

### ■社員総会

会長および理事・監事等の少人数の出席者と議決権行使書により審議事項について決定します。

## 2024 年度研修会のお知らせ

### ■大学教育委員会

新任教員向け研修会「私立大学とは」  
8 月頃開催予定  
看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際  
2025 年 1 月頃開催予定

### ■国際交流委員会

これからの国際交流—グローバルな看護人材の育成の現状と展望—（仮）  
10～11 月頃開催予定

### ■研究活動委員会

EBN リサーチエビデンスをどう実践に活かすか  
9 月頃開催予定

### ■大学運営・経営委員会

学生募集に効果的な大学のブランディングを高めるための戦略  
10 月頃開催予定

詳細はこちらから



## 2024 年度役員候補者選出選挙

役員候補者選出選挙実施中

投票期間：4 月 22 日～5 月 13 日

## 2024 年度開設 私立看護系大学 (50 音順)

学校名	学部学科名	定員
大阪歯科大学	看護学部看護学科	80 名
北里大学	健康科学部看護学科	80 名
仙台青葉学院大学	看護学部看護学科	90 名

## 編集後記

会報第 51 号が発刊されました。今年の初めに令和 6 年能登半島地震が起き、いまだ復興には遠い状況にあるなかでの発行ですが、被災を受けた富山福祉短大からご紹介があったことが印象深いです。国内で初めて通学 1 年コースで看護学士取得ができる学科で、1 人に 1 人教員アドバイザーが付き指導とあります。短大で学んだ人々には朗報であり、今後も増えることが望めます。また愛知県の地区活動プロジェクト報告も他の地区の活動に大いに参考になる貴重な内容でした。

私立大学を取り巻く社会情勢が増々厳しくなるなかで、新しく 3 つの看護学科が開設され、仲間が増えたことは喜ばしいことです。また「ポストコロナにおける看護教育推進事業」への助成事業にも期待したいです。今後も会報について皆様からのご意見を頂戴しながら、より良いものにしていく所存です。最後になりましたが令和 6 年能登半島地震の一日も早い復興をこころから祈ります。

広報委員会 濱中 喜代

## 日本私立看護系大学協会会報 第 51 号

発行者：一般社団法人 日本私立看護系大学協会

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-5 翔和須田町ビル 2 階

TEL 03-6261-2071 / FAX 03-6261-2072 E-mail office@jspcun.or.jp

<https://www.jspcun.or.jp/>

編集責任者：守田美奈子

印刷所 三美印刷株式会社